

「うちの取組」

－ワーク・ライフ・バランスと人材多様性（diversity）の促進をめざして－

－早稲田大学の男女共同参画－

－早稲田大学の概要と現状－

早稲田大学は、2012年に創立130周年を迎えた、13学部22研究科（独立研究科を含む）を擁する私立総合大学です。学生数は、学部学生44,295名、大学院学生（修士課程）7,228名、同（博士後期課程）2,051名、教員（任期の定めのない専任教員）1,276名で、その女性比率は、学部学生36.2%、修士課程学生29.1%、博士後期課程学生35.9%、教員11.9%となっています（2013年5月1日現在）。

－早稲田大学創設の先人達と女子教育－

実は、早稲田大学創設の先人達は、女性に高等教育の機会の無かった明治時代に、早くからその必要性を認識し、実現に積極的であったと言われていています。創設者大隈重信は、政治家で教育者であり、多方面に様々な業績を残していますが、大隈の事業の一つに「女子教育」の推進があります。日本女子大学の創設者成瀬仁蔵を支援し、自ら設立委員長となって日本女子大学の設立に尽力し、その後も大学の運営にも協力しました。その創立祝賀会で、大隈は『男女複本位論』を披露し、女性にも男性と同様に高等教育の機会を与え、その優れた能力を存分に発揮してこそ、真に、社会が進歩し、文化が向上すると力説しました。また、第3代総長の高田早苗は、文部大臣就任中の1915（大正4）年に、それまで高等学校卒業生（男性のみ）にしか認められていなかった大学への入学資格を高等女学校卒業生にも認めようとする当時としては画期的な提案を行い、1920（大正9）年の大学令による大学設立時に女性への高等教育の門戸開放を計画しましたが、当時の文部省の要請により計画を断念しています。その後は、聴講生などで女性の受け入れを続けてきましたが、1939（昭和14）年に4名の女子正規学生が入学し男女共学の一步を踏み出しました。

－早稲田大学での男女共同参画の歩み－

その後、年々女子学生数は増えてきましたが、当時の社会情勢も影響してか、残念ながら、女子学生や女性研究者に対して十分な理解や支援があったとは言えませんでした。それが大きく動き出したのが10年ほど前です。

2003年に、学業（研究・仕事）と子育ての両立支援のため、地域開放型保育所「もちゃんナーサリー早稲田ルーム」を開設し、その後、2007年には東京都認証保育所「ポピンズナーサリー早稲田」（現「ポピンズナーサリースクール早稲田」）に改設し、現在に至っています。

2006年には、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に、「研究者養成のための男女平等プラン」が採択され（採択期間 2006～2009年度）、この委託事業を遂行するために早稲田大学女性研究者支援総合研究所（2011年3月閉所）を設置しました。

2006年12月には、大学院学生を対象とした「研究者養成のための男女平等プランに関する調査～大学院生の現状と支援ニーズ～」を実施、翌2007年7月には「研究者養成のための男女平等プランに関する調査～若手研究者の現状と支援ニーズ～」を実施し、それぞれ報告書を作成し公表しました。

2007年10月21日、創立125周年の節目には男女共同参画推進室を設置し、「早稲田大学男女共同参画宣言」を発表しました。翌2008年7月には、任期の定めのない専任教職員全員を対象とした「男女共同参画推進に関する意識・実態調査」を実施、同年12月には、この調査結果と過去の大学院学生や若手研究者の調査結果などを元に、その後10年間の行動計画を示した「早稲田大学男女共同参画基本計画」を策定しました。



▲ワークライフバランス・サポートセンター

（西早稲田キャンパス 60号館 2階）

また、同年には、理工系学部・大学院のある西早稲田キャンパスに、キャリア形成や研究と家庭との両立についての相談ができる「相談室」や「授乳室」など子育て支援の設備を備えた「キャリア初期研究者両立サポートセンター」（現「ワークライフバランス・サポートセンター」）を、支援活動の拠点として設置しました。

2011年には、早稲田大学が独自に運営する「学生・教職員用託児室」（一時預かり専用）を設置しさらなる子育て支援の充実を図っています。

そして、現在の男女共同参画推進室は、その対象を女性研究者のみに限定せず、性別を問わず、教職員・学生に広げ、男女共同参画推進委員会とその下に、4つの部会、制度環境部会、教育研修部会、広報調査部会、サポートセンター部会が様々な活動を展開しています。

一例を紹介すると、ジェンダーや男女共同参画についての意識啓発のための研修や講演会、キャリア形成に必要なスキルアップ講座や子育て・介護支援に関する講座、先輩研究者との交流会など



▲学生・教職員用託児室

（早稲田キャンパス 99号館 1階）

の開催、ポスターやリーフレット、ニュースレターなどの広報紙の発行、相談窓口の運営などがあります。

2012年からは、基幹理工、創造理工、先進理工の3学部が「理工ガールズイベント」を開催し、現役学生や女性教員らが自身の体験をもとに理工系分野で学び研究する魅力を伝え、女性の少ない理工系分野への進学支援も始めました。



▲2013年8月22日、理工ガールズイベント

－Waseda Vision 150 と男女共同参画－

2010年に男女共同参画担当として、初の学内女性理事が誕生した早稲田大学では、2012年11月、20年後の創立150周年までの中長期計画として発表した「Waseda Vision 150」の中で、男女共同参画とダイバーシティの推進も重要課題として取り上げました。現在、その実現に向け、これまでの男女共同参画の活動からさらに飛躍させるため、具体的な方針の検討を始めたところです。

(早稲田大学 男女共同参画推進室
前室長 川田宏之 (理工学術院 教授))